

**RCHR** 第155回サロンの人権

話題提供：瀬戸徐 映里奈氏

(同志社大学 人文科学研究所 嘱託研究員)

難民でかわる街、  
難民がかえる街

ベトナム難民が居住する被差別部落と

その周辺地域を事例として

無料

9月19日(土) 午後2時～4時

オンライン開催を予定しています。

参加希望者は[otazune@rchr.osaka-cu.ac.jp](mailto:otazune@rchr.osaka-cu.ac.jp)に

前日までにご連絡ください。

折り返し参加に必要な情報をお知らせします。

なお、オンライン参加の困難な事情のある方は  
ご相談ください。

難民問題が深刻化しているにも関わらず、日本は難民受け入れに消極的な姿勢を取り続けています。

しかし、日本には1970年代末から90年代にかけて約1万人のインドシナ難民（ベトナム・ラオス・カンボジア）を受け入れた経験がありました。

彼ら・彼女たちは受け入れられた町でどのように生活を再建させ、受け入れ先の町の人々はどのように対応したのでしょうか。

報告では、特にベトナム難民が多く住む町、そのなかでも被差別部落とその周辺地域をとりあげ、就労・教育・町内会の場から元住民たちと新住民であるベトナム難民たちがどのように出会い、関わりが形成されたのかを紐解き、難民受け入れが地域社会になにをもたらすのかについて考えたいと思います。

お問い合わせはセンターまで

06-6605-2035

[otazune@rchr.osaka-cu.ac.jp](mailto:otazune@rchr.osaka-cu.ac.jp)